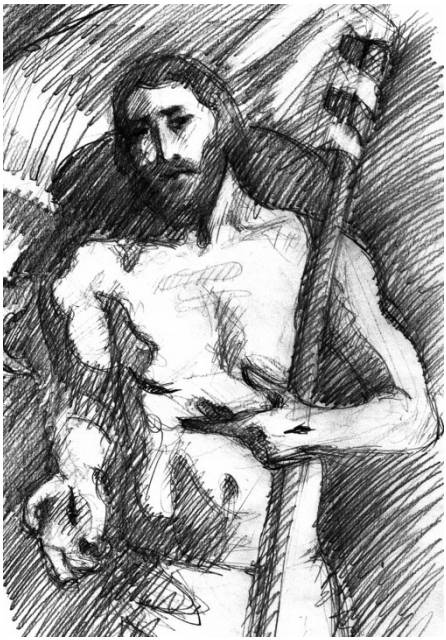
十字架の道行

カトリック高幡教会聖堂の十字架道行の像と合わせて



ルカ福音書による主イエスの受難の黙想

初めの祈り

（司祭及び助祭は参加する場合、指導「先唱」を担う）

先唱　神よ、✝ 私を力づけ、

一同　急いで助けに来てください。

先唱　栄光は父と子と聖霊に。

一同　初めのように今もいつも世々に。
アーメン。

賛歌

（たとえば補18「一粒の麦が地に落ちて」、補22「キリストはぶどうの木」、カトリック聖歌171「いばらのかむり」等）

祈願

先唱　全能永遠の神よ、あなたは人類にへりくだりを教えるために、救い主が人となり、

十字架をになうようにお定めになりました。わたしたちが、主とともに苦しみを耐えることによって、復活の喜びをともにすることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。

（受難の主日 集会祈願に参照）

一同　アーメン。

第一留　主の晩さん　（ルカ 22・14―15、17―21）

時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。

イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。」

そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」

それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。」

沈黙

（黙想のために：イエスは生涯の最後に弟子たちと食事をされることを望まれた。その中でご自分のすべてを弟子たちに与えようとされた。そのイエスの思いを、わたしたちは聖体に近づくたびに受け取っていく。）

先唱　「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いな

さい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」
（マルコ8・34―35）

一同　このパンを食べ、この杯を飲むたびにわたしたちは主の死を告げ知らせます。
（一コリント11・26）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第二留　イエス、オリーブ山で祈られる

（ルカ22・39―42、45―46）

イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言われた。そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。

「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。」

沈黙

（黙想のために：苦しみを前にしたキリストの祈り。それは苦しみの中にある人すべての祈りでもある。自分ではどうすることもできず、祈ることしかできない。祈りの中で、神よ、わたしたちをみ旨に適う者としてください。）

先唱　キリストは、肉において生きておられた

とき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、ご自分を死から救う力のある方に、祈りと願いをささげ、そのおそれ敬う態度のゆえに聞き入れられました。

一同　キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして完全なものとなられたので、ご自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となったのです。

（ヘブライ5・7―9）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第三留　イエス、裏切られる　（ルカ22・47―53）

イエスがまだ話しておられると、群衆が現れ、十二人の一人でユダという者が先頭に立って、イエスに接吻をしようと近づいた。

イエスは、「ユダ、あなたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。イエスの周りにいた人々は事の成り行きを見て取り、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。

そのうちのある者が大祭司の手下に打ちかかって、その右の耳を切り落とした。

そこでイエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と言い、その耳に触れていやされた。それからイエスは、押し寄せて来た祭司長、神殿守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」

沈黙

（黙想のために：主よ、この世界は闇の支配下にあります。戦争が、憎しみが、環境破壊が、わたしたちを圧迫

します。わたしたちも、その闇のわざに組み込まれています。）

先唱　主よ、あなたの平和の道具としてわたしたちをお使いください。

一同　疑いから信頼へ、絶望から希望へ、憎しみから愛へ、闇から光へ、死からいのちへ、十字架の道を歩まれたあなたと共に、過ぎ越していくことができますように。

（「平和の祈り」より）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第四留　イエス、ペトロから否認される

（ルカ22・54―62）

人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて従った。人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座っていたので、ペトロも中に混じって腰を下ろした。

するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。

しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。

少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。

一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。

だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あ

なたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

沈黙

（黙想のために：主よ、あなたの眼差しがわたしには苦しく思えます。わたしは何度あなたを裏切ったことか。主よ、あなたの眼差しがわたしを救って下さいます。あなたは何度わたしをゆるしてくれたことか。）

先唱　わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、キリストもわたしたちを否まれる。

一同　わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を否むことができないからである。

（＝テモテ2・11－13）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第五留　イエス、暴行を受ける（ルカ22・63－65）

さて、見張りをしていた者たちは、イエスを侮辱したり殴ったりした。

そして目隠しをして、「お前を殴ったのはだれか。言い当ててみろ」と尋ねた。

そのほか、さまざまなことを言ってイエスをののしった。

沈黙

（黙想のために：この世界の中で、ゆえなく圧迫され、差別され、暴力を受けて苦しんでいる人々が大勢いる。そこで苦しんでいるのは実はキリストご自身なのだ。主はこう言われた。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたし

にしたのである。」）

先唱　わたしたちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた。

一同　苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなかった。ほふり場に引かれる小羊のように、毛を切る者の前に物を言わない羊のように、彼は口を開かなかった。

（イザヤ53・6―7）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第六留　イエス、死刑の判決を受ける

（ルカ23・13―14、18、20、23―25）

ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、言った。

「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。

ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。

ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。

そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。

そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

沈黙

（黙想のために：罪なき方が人々の裁きの前に立たされ、罪とされる。主よ、わたしたちこそ、あなたの前に立たされるべきなのに、あなたは甘んじて人々の裁きを受けられた。）

先唱　彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのにわたしたちは思っていた
神の手にかかり、打たれたから、彼は苦しんでいるのだと。

一同　彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのはわたしたちのとがのためであった。
（イザヤ 53・4―5a）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。

アーメン。

第七留　イエス、キレネのシモンに助けられる

（ルカ 23・26）

人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。

沈黙

（黙想のために：わたしは主の十字架を荷なおう。しかし、本当は主がわたしの重荷をともに荷なっていてくれる。病と貧しさと苦しみの中にいるわたしの苦しみ、あの人の苦しみ…。その苦しみを共に苦しんでくださるあなたを見いだせますように。）

先唱　「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。」

一同　「わたしは柔和で謙遜なものだから、わた

しのくびきを負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

（マタイ 11・28―30）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第八留　イエス、エルサレムの婦人たちを慰める

（ルカ 23・27―31）

民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。

イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。

「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。そのとき、人々は山に向かっては、『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、丘に向かっては、『我々を覆ってくれ』と言い始める。『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」

沈黙

（黙想のために：主は、ご自分の苦しみの中でも、他人に無関心ではない。相手の苦しみ、相手の痛みに敏感であられる。主よ、わたしたちに「喜ぶ者とともに喜び、悲しむ者とともに悲しむ」心を与えてください。あなたの示された愛をわたしたちが生きることができますように。）

先唱　「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

（マルコ 10・45）

一同　娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなくろばに乗って来る。

（ゼカリヤ９・９に参照）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第九留　イエス、十字架につけられる

（ルカ23・32―38）

ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。

「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。

そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」

兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」

イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

沈黙

（黙想のために：主よ、敵意と憎しみがこれほどあなたに向かってきているのに、あなたは、その人々をゆるされようとする。かつてガリラヤで人々にされたように、最後まであなたはゆるし続け、愛し続ける。）

先唱　わたしを見る者は皆、わたしをあざ笑い唇を突き出し、頭を振る。「主に頼んで救

ってもらうがよい。主が愛しておられるなら、助けてくださるだろう。」

一同　わたしを母の胎から取り出し、その乳房にゆだねてくださったのはあなたです。母がわたしをみごもったときから、わたしはあなたにすがってきました。母の胎にあるときから、あなたはわたしの神。

（詩編22・8―11）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第十留　イエス、母を弟子に与える

（ヨハネ19・25―27）

イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、

「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。

それから弟子に言われた。

「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

沈黙

（黙想のために：イエスがお生まれになったころ、シメオンはマリアに「あなた自身も剣で心を刺し貫かれます」と言った。御子とともに苦しみに耐える聖母マリアを、主は「教会の母」としてわたしたちに与えてくださった。）

先唱　天に大きなしるしが現れた。一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。女は身ごもっていたが、子を産む痛みと苦しみ

のために叫んでいた。

一同　女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた。子は神のもとへ、その玉座へ引き上げられた。そのとき、天で大きな声が次のように言うのを、聞いた。「今や、我々の神の救いと力と支配が現れた。神のメシアの権威が現れた。」（黙示録12・5、10a）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第十一留　イエス、犯罪人をゆるす

（ルカ23・39―43）

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」

すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」

そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

沈黙

（黙想のために：「今日」は救いの時。この十字架の中に救いが輝き始めている。今日あなたの十字架を見つめるわたしたちを、今日あなたと「一緒に」いさせてください。）

先唱　深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。主よ、この声を聞き取ってください。嘆き

祈るわたしの声に耳を傾けてください。

一同　主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら、誰が耐えられるでしょう。しかし、ゆるしはあなたのもとにあり、人はあなたを畏れ敬います。わたしは主に望みをおき、わたしの魂は望みをおき、み言葉を待ち望みます。わたしの魂は主を待ち望みます。見張りが朝を待つにもまして。

（詩編130に参照）

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第十二留　イエス、息を引き取る

（ルカ23・44―49）

既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。

沈黙

（黙想のために：死によって、すべては終わってしまったかに見える。結局は失敗だったのか。闇が支配しているようにしか思えない。しかしここに、もういのちが輝き始めている。すべてを父である神にゆだねられた「正しい人」。）

先唱　主よ、あわれんでください。わたしは苦し

んでいます。目も、魂も、はらわたも、苦悩のゆえに衰えていきます。いのちは嘆きのうちに年月はうめきのうちに尽きていきます。

一同　主よ、わたしはなお、あなたに信頼し、「あなたこそわたしの神」と申します。わたしにふさわしいときに、み手をもって追い迫る者、敵の手から助け出してください。あなたのしもべにみ顔の光を注ぎいつくしみ深く、わたしをお救いください。

先唱　イエスの愛だけが、

一同　すべてにおいてすべてとなりますように。アーメン。

第十三留　イエス、復活する　（ルカ24・1―9）

週の初めの日の明け方早く、婦人たちは、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。

そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」

そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。

一同　主は生きておられる！

先唱　キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思

わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。

一同　人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

（フィリピ2・6―11）

先唱　わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。

一同　死は、もはやキリストを支配しません。キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。

（ローマ6・8―10）

共に祈る

先唱　十字架の道を歩まれた主の心にならい、苦しみの中にある人々のことを思いながら、父である神への信頼をもって、「主の祈り」を共に唱えましょう。

一同　天におられる・・・

先唱　十字架まで御子と苦しみをともにされた聖母マリアに心を合わせて「アヴェ・マリアの祈り」を共に唱えましょう。

一同　アヴェ・マリア・・・

祈願

先唱　いつくしみ深い父よ、御ひとり子の死を記念し、復活の希望を新たにした民の上に豊かな祝福を注ぎ、ゆるしと励ましを与えてください。信仰が強められ、永遠の救いが確かなものとなりますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。

（聖金曜日　会衆祈願に参照）

一同　アーメン。

派遣の祝福

（司祭及び助祭がいるとき、派遣の祝福を授けられる）

聖歌

（たとえば典礼聖歌390「キリストのように考え」等）

（司祭及び助祭がいない、また聖歌もない場合、十字を切っておわる）

（訂正版 2022.3.11）